

書籍『図説 %Z法と対称座標法の入門』の正誤表 (初版 第1刷) その1

題記の書籍をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。その書籍の中で、下表に示す箇所に誤記がありましたので、お詫びして訂正します。
 なお、下表の「訂正箇所」の欄に赤色で示した事項が、今回の追加訂正分です。 著者；柴崎 誠

訂正箇所	誤っている表記	正しい表記
目次 iv 電気のおもしろ小話	時間の進む方向が、位相の遅れ? 47 無効電力の方向は、美空ひばりの定理で考える 67	時間の進む方向が、位相の遅れ? 47 <u>循環電流 I_C を無効横流という理由</u> 62 無効電力の方向は、美空ひばりの定理で考える 67
P12 の表 3・1 の中の 水車発電機の下側欄	短絡発生から <u>3~6 サイクル間程度</u> 後	短絡発生から <u>数秒</u> 後
P41 の例題 4 の設問文 上から 2 行目	量値が <u>2 000</u> [MV・A]で、・・・	量値が <u>1 000</u> [MV・A]で、・・・
P82 の上から 8 行目	の中の “ Q の値に負値を代入”	の中の “ $(-Q)$ カッコ内の値に負値を代入”
P142 の本文の下から 6 行目	・・・制動巻線線を持たない・・・	・・・制動巻線を持たない・・・
P144 の本文の上から 5 行目	・・・この講義 <u>05</u> では、・・・	・・・この講義 <u>07</u> では、・・・
P148 の (7・28) 式 から下へ 2 行目	・・・上記 (7・28) 式の \dot{E}_{i2} はゼロの・・・	・・・上記 (7・28) 式の \dot{E}_{2i} はゼロの・・・
P149 本文の 8 行目	相電圧 \dot{E}_S に置き代えます。・・・	相電圧 \dot{E}_{SA} に置き代えます。・・・
P152 の 6 行目	・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SA} , E_{SA} を・・・	・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SB} , E_{SC} を・・・
P155 の図 10・2 の名	図 10・2 NR を分散接地する場合の <u>I_0 の分布図</u>	図 10・2 NR を分散接地する場合の <u>各 $3I_0$ の方向</u>
P161 の(11・17)式	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{-\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2} \right) \dot{E}_{SA}$	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2} \right) \dot{E}_{SA}$

次頁に続く

書籍『図説 %Z法と対称座標法の入門』の正誤表（初版 第1刷）その2

訂正箇所	誤っている表記	正しい表記
P179の(15・30)式	$\cong 1.0784 [\text{pu}] \angle 0 [^\circ]$	$= 1.0784 [\text{pu}] \angle -3.55 [^\circ]$ (E_{SA} とほぼ同位相)
P192の例題6の「解法と解説」の中の(1)式から2行上から	<p>(説明；次の二重線を施した3か所の「3」が余分であるため、3か所とも「3」を削除して修正する。)</p> <p>・・・ 題意の未補償分の $11869[\text{kV}\cdot\text{A}/\text{相}]$の値から $\frac{3}{100}\% \dot{Z}_C[\%]$ の値、及び、零相分 $\%Z_0[\%]$の値を、$3\%R_N[\%]$と $\frac{3}{100}\% \dot{Z}_C[\%]$ の並列合成値で求めます。</p> $\frac{3}{100}\% \dot{Z}_C[\%] = -j \frac{10000[\text{kV}\cdot\text{A}]}{3[\text{相}] \times 11869[\text{kV}\cdot\text{A}/\text{相}]} \times 100[\%] = -j 28.08[\%] \quad (1)$	
P234の図2の中	図2の E_A と E_{SA} が逆に記載してある。	図2の E_A と E_{SA} を入れ替えて訂正する。
P253の(26-1)式	$+j5 \times (X_{G2} + X_T) \cong \frac{1}{-j5 \times 2 \omega C_1} \quad (26-1)$	$ 5 \times (X_{G2} + X_T) \cong \left \frac{1}{5 \times 2 \omega C_1} \right \quad (26-1)$
P270の6.項の(1)項	(1) <u>微</u> 地絡____を生じた・・・	(1) <u>50%</u> 地絡故障を生じた・・・
P282の図30・10の中のアーク表示	(誤記内容の説明) 図30・10の中の上相のA相、中相のB相、下相のC相の <u>3相分の全ての碍子表面にて閃絡状態を表すアークを描いてある。</u>	(修正方法の説明) 図30・10の中の中相と下相の碍子表面の <u>アークを消去</u> して、上相の碍子表面のアークのみを残し、A相にて1線地絡故障を生じている状態に修正する。
P286の図30・14の中	点線を基準に実線が「 <u>28.1°</u> 遅れ」と記してある。	「 <u>32.0°</u> 遅れ」に訂正する。
以下余白		

以上